

第 15 回 旭川流域連絡協議会 議事録

日 時：平成 16 年 11 月 4 日（木）14：00～15：30

場 所：落合町中央公民館 2 階講座室

参加者：岡山市、瀬戸町、吉井町、建部町、久米南町、中央町、旭町、落合町、北房町、久世町、勝山町、美甘村、川上村、岡山県土木部河川課、岡山県土木部河川開発課、建部建設事務所、真庭地方振興局、東備地方振興局、国土交通省岡山河川事務所

開会挨拶 協議会会長 辻 騏一郎（落合町長）

一言ご挨拶を申し上げます。

非常によい気候を迎えていますが、本日は第 15 回旭川流域連絡協議会を開催させて頂きましたところ、何かとご多用のところをお繰り合わせご出席賜りまして誠に有難うございました。

平素から旭川流域連絡協議会を通じまして、諸活動を色々な面でご指導頂いていることを心から厚く御礼申し上げる次第でございます。

平成 16 年度に入りまして、全国的な規模で台風また地震等の自然災害が本年は多発いたしました。県内市町村におきましても非常に甚大な被害が発生しています。そうした地域の皆様に心からお見舞いを申し上げ一日も早い復旧をお祈り申し上げる次第であります。今後、森林保全や堤防等の整備などハード面の整備と共に、情報伝達経路の整備や自主防災組織の育成強化、また地域と行政との協力関係など、地域が災害に強くなるための取り組みの重要性が一層増してきていると思います。

市町村合併で体制の変動などがありますが、災害時だけに限らず平素におきましても近隣市町村との協力体制を構築するなど、益々旭川流域を基盤とした旭川流域連絡協議会市町村の連携というものが必要になって参りました。今後とも皆様方のご指導ご協力をいただきながら、そうした体制というものを整えて行きたいと考えています。

本日はご案内のとおり、今後の問題、予算の問題、国の施策など色々でございます。議事次第に従いまして進めさせて頂きますのでどうぞ宜しく願いを申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。

議 事

配付資料の議事次第に基づき、以下の事項について議事を行った。

1) 市町村合併に伴う構成団体名の変更と今後の体制について

- ・ 今後の旭川流域連絡協議会の構成団体（枠組み）は、合併によって新たにできる市町及び建部町、瀬戸町、新庄村で構成（平成 16 年 10 月 14 日現在）し、団体名称も新市町村名とすることについて事務局より説明を行い、了承。
- ・ 合併後の各自治体の協議会担当者や運営等については、今後、合併完了までに調整を行うことについて、了承。

2) 平成 16 年度中間決算報告及び平成 17 年度予算案について

- ・ 平成 16 年度中間決算報告を事務局より説明を行い、了承。
- ・ 平成 17 年度の予算案について、支出計画案について説明し、了承。
- ・ 平成 17 年度の協議会負担金については、負担金対象額は平成 16 年度と同様 30 万円とする。内訳は河川管理者（国 10 万円、県 5 万円、計 15 万円）、流域内市町村（15 万円）とし、合併後の市町村については、新市町を構成する市町村の現行負担

金をそのまま移行する案を提示。

- ・平成17年度予算案における負担金が、岡山市の22,500円に対し、真庭市は57,500円と大きい。この不均衡について意見が出されたが、合併が現時点では予定である一方で、来年度の予算措置の手續きが必要であることから、平成17年度は、暫定的に現行負担金をそのまま移行する。但し、平成18年度予算編成時には、委員、幹事の皆様の意見を聞き検討することです承。

3) 平成16年度台風被害報告

- ・平成16年度岡山県に大きな被害をもたらした台風16号、18号、21号、23号について、岡山県全体及び吉井川・旭川・高梁川の被害状況及び浸水被害が発生した自治体の要請で国交省が所有する排水ポンプ車等を出動したことについて報告。
- ・岡山県河川課より、今年度の災害状況について説明があり、被災箇所については早期の災害復旧に努めること、また災害予防の観点から災害時の情報伝達について降雨量、河川水位などの災害情報をインターネットで提供できるよう平成18年度完成を目指し整備中であることが報告された。

4) 平成16年度 国土交通省重点施策

- ・平成16年7月に発表された「国土交通省重点施策」について特に大規模災害対策には地域の水防力の強化が加えられ、行政と地域が一体となった防災への取り組みの重要性が強調されたこと、地域再生やまちづくりについて説明を行った。

5) 自主防災組織の育成・設置に関する報告書 - 地域防災力の強化に向けて - (抜粋)

- ・岡山県から県・市町村防災対策協議会(平成15年5月20日発足、会長:岡山大学環境理工学部教授 竹宮 宏和)が平成16年9月に取りまとめた上記報告書について概要を説明。この報告書については、近々に印刷され各市町村への配布される予定である。
- ・自主防災組織の整備に当たっては、組織としての枠組みだけでなく、災害時、実際に機能する組織育成の重要性が報告された。

6) 地域コミュニティ防災体制構築に向けての取り組み

- ・流域連絡協議会では、自主防災組織の育成に向けて岡山市操明学区、建部町川口区、落合町開田地区の3地区を重点モデル地区に選定し、組織の強化育成に向けた取り組みを行うこととした。
- ・その第1段階として、モデル地区に対し、組織の設立経緯、規約、活動状況、問題点、今後の課題などについて実施したヒヤリング結果について報告した。地区により活動状況に地域性からも差が出ているが、共通している点は一般地域住民の防災意識が希薄化していることが挙げられた。
- ・今後の取り組みについては、協議会全体としては防災意識高揚に向けて主に広報について活動・支援などを行っていくこと。また、モデル地区としては、挙げられた課題の解決を目指していくこと、防災マップづくりなどを行っていく。
- ・上記の報告、活動方針について、了承。

7) その他

- ・地方6団体提出の「三位一体の改革」案について、岡山河川事務所渡部所長より国交省河川局の立場から河川・砂防の補助事業が補助金削減対象になっていることの問題点について最近の動きを含めて説明。これに対し、岡山県河川課椋野課長から山陽新聞(H16.10.27)に知事の当選後インタビューでこの三位一体改革に対する県のスタンス

を述べていることを紹介した。

- ・ 平成16年度の旭川流域交流シンポジウムは、11月20日、21日に勝山町で行われる予定で準備が進められていることを報告。
- ・ 新潟・福島、福井水害、台風による瀬戸内沿岸の高潮災害を受けて、緊急防災フォーラムが9月30日、広島市で開催された。落合町長（辻騏一郎）がパネリストとして出席され平成10年10月洪水と防災についての意見を述べた新聞記事の紹介を行った。また今年度の多くの台風を受けて一般市民への意識啓発のため、防災に関するシリーズ特集の新聞広告の紹介を行った。

閉会挨拶 岡山河川事務所長 渡部 秀之

今年のような災害を見たとき、行政と地域住民の方々と一緒になって災害に強い地域にしていかなければならないとともに、流域という単位で地域の安全を守ることは大切なことだと思っています。またそういう意味で流域連絡協議会のような形で年に何回かお集まりいただき意見交換できることは本当に意義のあることだと私は信じております。

少し一方的な資料説明が多く、ディスカッションする機会が少ないという点もありましたが、別の機会でも結構ですので情報交換を通じ協力関係を深めることができれば幸いです。今後、市町村合併によって枠組みや体制も変わるとは思われますが、流域連絡協議会という形が、今後も続いていくことを祈念し、閉会の挨拶といたします。ありがとうございました。

事務局より

次回、第16回旭川流域連絡協議会は、平成17年2月中旬頃を予定しております。万障お繰り合わせの上ご出席いただければと思います。本日はありがとうございました。

以上